

## 【報告事項 1.】

### 令和2年度事業報告の件

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止対策のために、本会会務運営や公益事業において、様々な変更に対応していきことが求められる1年であった。

4月に発出された「緊急事態宣言」により、本会においても事務局長を除き職員を在宅勤務としたが、狂犬病予防定期集合注射と重なる地域もあったことから、緊急時に対応するために支部長と本部をつなぐホットラインを設置し、東獣危機管理室長が対応するなどの策を講じて会務を補いながら感染対策を実施した。

東京都においても様々な感染拡大防止対策措置が取られる中、本会の講習会、委員会等の事業及び会議は、オンラインを活用するなどし、開催形式を変更したり、規模を縮小したりしながらも、できる限り事業の遂行に努めた。その結果、本部公益事業については、狂犬病集合注射事業を除き、概ね計画に沿って実施することができた。

支部公益事業については、多くの参加者が集まるイベントは各地で中止となり、計画変更を余儀なくされた。また学校飼育動物に関わる訪問活動等、人と接する活動に関しては、休校が生じたり、児童への感染対策において訪問が制限されたりしたこと、予定した回数が実施できないケースも生じたが、各支部においてもオンラインによる講義を実施したり、感染対策を講じながら、事業の遂行に努めた。

本会の危機管理室感染症対策セクションにおいては、会員や地方獣医師会、都民、ペットの飼い主に対して新型コロナウイルス感染症とその対策に関する最新情報を適宜提供し、COVID-19に関する正しい情報を発信し続けた。

令和2年度でのマスコミ等への情報提供は33件、一般都民向け情報発信回数12回、会員向け情報発信は17回に及び、これらの情報については民間だけでなく、地方自治体や国からも情報引用の申入れがあり、都民や飼い主だけでなく、広く社会に対し、また動物取扱業や、動物に関わる業種に対しても、未知のウイルスに対する不安による社会の混乱を防ぐために、一定の成果があげられたと考える。

本会会員に対しては、福利厚生会費免除や狂犬病集合注射事業の事務手数料免除等、様々な支援措置を実施する中、関係者の感染による動物病院の休診や、動物のPCR検査環境を整備することによる預かり動物の対策支援、飼い主の罹患による動物の取扱い等についての相談に対応するとともに、不足しているPPEを提供する等の支援を行った。

令和3年度に入った今もまだCOVID-19の流行は衰えを見せず、慎重な対応が求められていることから、これまでの実績を活かし継続して対策に取り組んでいく所存である。

恒例となった小池東京都知事のヒアリングにおいては、東京iCDCへの獣医師の参画、学校飼育動物や野生鳥獣の遺体検案及び埋葬事業における児童・都民への公衆衛生対策や情操育成への寄与と充実化の必要性、補助犬診療費助成による身体障がい者支援事業の重要性、マイクロチップ装着率の推進対策の他、本会が長年取り組んできた小笠原自然環境保護事業において、オガサワラカワ

ラヒワの生息数が急激に減少していることによるノネコ捕獲の強化の必要性などを提言した。

WWF（世界自然保護基金ジャパン）の呼びかけにより、日本獣医師会、日本医師会、東京都医師会等とともに、「人と動物、生態系の健康はひとつ ワンヘルス共同宣言シンポジウム」の共同宣言に参加し、自然環境破壊による動物由来感染症対策の重要性や、パンデミックに対策するために様々な業界や分野が協力していくことの必要性について周知するとともに、今後も相互に協力し、ワンヘルスの啓発活動に取り組んでいくこととした。

継続的に実施している公益事業として、調査研究事業、小動物地域獣医療の充実のための情報提供、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じて都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成の支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による畜産物に係る都民の食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した動物福祉の向上と、人と動物のより良い共生社会の構築、補助犬の保健衛生の向上及びその普及啓発活動を通じた補助犬法の周知と身体障がい者生活支援、災害時の動物救護対策の構築、小笠原諸島の希少種や繁殖地の自然環境保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療などの活動に取り組んだ。

さらには、事業推進と業界の活性化に関しては、動物業界のみならず様々な分野・業種が一致協力した取り組みが行えるよう、オンラインミーティングやメール等を駆使して関係機関、本会賛助会員との相互連携を図ってきた。

本会会員に対する福利厚生サービスについては、賛助会員 83 社による協力を得て、本会会員や家族、勤務スタッフも含めた会員特典の提供として、健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の充実に積極的に取り組んだ。

# I 会務報告

## 1. 役職員の人事

### (1) 東京都庁関係：

村中志朗 会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2020年4月～2022年3月）

高橋恒彦 業務執行理事：東京都自然環境保全審議会委員（2019年7月～2021年6月）

佐藤 克 危機管理室感染症セクション長：東京都動物由来感染症検討会委員  
（2018年4月～2021年3月）

鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年1月～）

平井潤子 事務局長：東京都動物愛護管理審議会小委員会委員（2020年7月～2022年6月）

平井潤子 事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2021年3月～2024年2月）

### (2) 日本獣医師会関係：

村中志朗 会長：日本獣医師会副会長（2019年6月～2021年6月）

安田辰巳（前副会長）：東京地区代表理事（2019年6月～2021年6月）

小林元郎 副会長：動物福祉・愛護委員会（2019年6月～2021年6月）  
・VMAT養成カリキュラム等検討小委員会

中川清志 副会長：動物福祉・愛護委員会（2019年6月～2021年6月）  
・学校動物飼育支援対策検討委員会  
・総務委員会

新井敏郎 理事：学術・教育・研究委員会（2019年6月～2021年6月）

上野弘道 理事：小動物臨床委員会（2019年6月～2021年6月）

### (3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史（前副会長）：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2019年7月～2021年6月）

### (4) オリンピック関係：

村中志朗 会長：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問  
（2014年6月～）

### (5) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

村中志朗 会長：東京地区代表理事（2020年4月～2021年6月）

安田辰巳（前副会長）：監事（2019年7月～2020年3月）

### (6) その他：

村中志朗 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員  
（2019年6月～）

高橋恒彦 業務執行理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事  
（2018年5月～）

入交眞見 理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事  
(2020年4月～)

中川清志 副会長：簡易裁判所調定委員(2019年4月～2021年3月)

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員(2019年4月～2022年3月)

## (7) 事務局人事

事務局員2名退職(希望退職1名、定年退職1名)

事務局員1名休職(産休・育休)

事務局長代理1名新規入局 森伸子：獣医師 博士(獣医学)

## 2. 本会の活動状況

### (1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。また、COVID-19の流行対策により、定時総会、第1回定例理事会、第1回臨時理事会等を除き、書面またはオンラインにて開催した。

ア. 定時総会：第9回6/14

イ. 定例理事会：第1回5/12、第2回7/7、第3回9/30、第4回12/23、第5回3/11

ウ. 臨時理事会：第1回6/14

エ. 監査会：第1回<令和元年度全期決算監査>5/7、第2回中間監査会12/2

オ. 会務運営会議：第1回4/18、第2回7/1、第3回8/11、第4回10/27、第5回11/25、第6回3/1

カ. 地域職域合同支部長会：COVID-19の流行対策により開催していない

キ. 支部会計説明会(個別相談)：COVID-19の流行対策により開催していない

ク. 倫理委員会：COVID-19の流行対策により書面による委嘱のみ

ケ. 役員候補者選任委員会：COVID-19の流行対策により書面による委嘱のみ

コ. 共生社会構築委員会：第1回10/14

サ. 産業動物委員会：第1回8/5、第2回3/18

シ. 獣医公衆衛生委員会：第1回2/24

ス. 防災ブロック長会議：COVID-19の流行対策により開催していない

セ. 広報委員会：第1回7/20、第2回11/16

ソ. 東京地区三学会対策委員会：COVID-19の流行による三学会中止に伴い開催していない

タ. 表彰審査委員会：第1回5/1、第2回8/6

チ. 都委託獣医師働き方改革検討委員会：第1回10/20、第2回1/12

ツ. 人と動物の共通感染症対策委員会：第1回12/1、第2回1/26

テ. 危機管理・防災関係：第1回6/3

ト. 狂犬病予防対策委員会：第1回10/19、第2回12/4

ナ. 学校飼育動物対策委員会：第1回5/25、第2回9/11、第3回1/31

ニ. 関獣連理事会・幹事会：COVID-19の流行による三学会中止に伴い開催していない

ヌ. 東獣賛助会員ミーティング：COVID-19の流行対策により開催していない

ネ. 東獣サポーターミーティング：COVID-19の流行対策により開催していない

ノ. 東獣サポーターミーティング：新型コロナウイルス感染症対策により中止

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア. 公益認定関係：

令和元年度事業報告及び決算報告の電子申請（6/30）

令和2年度事業計画及び予算の電子申請（3/31）

イ. 都庁関係：

東京都知事要請 新型コロナウイルス感染症罹患飼い主からの飼育動物の預かり体制の整備

東京都福祉保健局 補助犬診療券贈呈（3/5）

令和2年度(第62回)東京都家畜保健衛生業績発表会への審査員派遣（3/5）

品川支部の協力により、東京都がお台場に設置したペット同伴可宿泊療養施設（船の科学館）に対するペット飼育診療支援を実施・継続中

ウ. 日獣関係：

新型コロナウイルス感染症対策に関するWeb会議出席（5/1）

新型コロナウイルス感染症対策に関するWeb会議出席（6/7）

第77回定時総会出席（6/8）

令和2年度全国獣医師会事務・事業推進会議（6/8）

エ. 関獣連関係：

COVID-19の流行対策により第1回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 栃木 4/19 中止

COVID-19の流行対策により令和2年度関東・東京合同地区獣医師大会・学会の開催中止  
令和2年度獣医事功績者表彰候補者の選定

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：

令和2年度はCOVID-19の流行対策により開催していない

カ. 他府県獣医師会：

新型コロナウイルス感染症関連情報の提供（HP特設ページの公開）

COVID-19の流行対策により、各獣医師会が開催するオンラインセミナーの告知協力

キ. 家畜衛生防疫対策事業関係

公益社団法人中央畜産会：

令和2年度第1回家畜衛生防疫対策関係事業推進会議書面開催（8/5）

令和2年度家畜防疫互助基金支援事業に係る中央推進会議出席（2/26）

その他畜産関係：

牛白血病高リスク牛自主淘汰牛の評価人会の開催（6/5）

東京都家畜保健衛生所施設見学（9/25）

馬の飼養衛生防疫関係事業推進検討会の開催（9/25）

ク. その他：

獣医系国立大学への地域枠入試実施に関する要請活動（8/24・8/26）

家畜衛生防疫対策関係事業に関する東京都との協議（9/24）

動物愛護週間中央行事（屋内）への講師派遣（9/26）

小笠原猫に関する連絡調整部会第1回（9/23）

おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会第2回幹事会（8/4）、第3

回幹事会（1/15）、第4回幹事会（3/29）

（3）国際交流関係：

第10回アジア小動物獣医師会大会（FASAVA）2019 東京大会の終了に伴う、（一社）FASAVA-TOKYO 2019 の解散手続きの実施

COVID-19 の流行対策による第11回アジア小動物獣医師会大会（FASAVA）2020 バンコク大会（7/16）中止

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等事業

5. 学校動物飼育対策推進事業 イ. 実施報告参照

12. 学会・講習会活動事業 実施報告参照

イ. 支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

令和2年度はCOVID-19の流行対策により開催していない

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・狂犬病臨床研究会「世界狂犬病デー2020 ウェブセミナー」10/4
- ・日本臨床獣医学フォーラム 第22回年次大会 9/19-9/22
- ・日本動物病院協会 年次大会2020 オンライン 7月～
- ・オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ実行委員会「オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ」12/19
- ・第9回ペットとの共生推進協議会シンポジウム オンライン開催 11/1
- ・WWF「人と動物、生態系の健康はひとつ ワンヘルス共同宣言シンポジウム」協力・共同宣言 2/13 オンライン開催
- ・「Animal world Cup 2021 ジャパンフェスティバルオンラインウィーク」6/19-25

【協賛】

- ・特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン2020.4月-2021.3月
- ・（一社）ペットフード協会・（一社）日本ペット用品工業会・メッセフランクフルト ジャパン（株）主催「第9回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」2021.4/1-4/4

【協力】

- ・日本獣医生命科学大学研究事業「加齢性動物疾病の先制医療拠点の構築プロジェクト」への協力
- ・特定非営利活動法人獣医系大学間獣医学教育支援機構への協力

5. 表彰など

（1）公益社団法人東京都獣医師会会長感謝状について

対象者：平田 真規則様（品川支部） ※令和2年7月7日（享年54歳逝去）

表彰理由：長年にわたり品川支部において、自治体と協働し、動物愛護作文コンクール実

施や学校飼育動物支援事業、ペット同行避難対策の推進に取り組み、公益活動に尽力した他、支部長職、会計職などを通じ、本部事業に貢献した功績に対し、会長感謝状を贈呈。

(2) 公益社団法人東京都獣医師会会長特別感謝状について

1) 対象者：高畑勇治様 高畑薫様（渋谷区広尾 在住）

表彰理由：新型コロナウイルス感染症流行に際し、防護服、マスク、フェイスガード等が入手困難になる中、獣医師会において緊急対応が生じた際に速やかな対応ができるように、との主旨で、防護服、マスク、フェイスガード、グローブ等を寄贈くださったことに対し、会長特別感謝状を贈呈。

2) 対象者：明治安田生命保険相互会社 上野支店

表彰理由：本会が設置する「動物のいのち救済基金」に対し、多額の寄付（869,300円）をくださったことに対し、会長特別感謝状を贈呈。

## 6. その他

(1) 会員名簿の作成

会員名簿を作成し、機関誌10月号に同封して会員に配布した。

(2) 規程類の改定

1) 「役員及び委員等の旅費謝金等授受に関する申合せ事項」の一部修正（第2回理事会）

【報酬、日当及び委託費等に関する申合せ事項】一部追加

1 本会は、役員の報酬並びに日当については、別に定める「理事の報酬等に関する規程」により代表理事となる会長には月額10万円（上限20万円）、業務執行理事となる副会長には月額7万円（上限10万円）、その他の業務執行理事には月額5万円（上限8万円）の報酬とし、理事は会議出席の都度1人1回当たり3万円（上限額）の日当、「監事の報酬等に関する規程」により監事は会議出席の都度1人1回当たり3万5千円（上限額）の日当、外部監事は会議出席の都度1回当たり5万円（上限額）の日当、更に「退任慰労金に関する規程」により月額報酬の支給対象となる理事に退職金を支給する（設立登記日/H24年4月1日施行）。

2) 「東獣ジャーナル編集規程」の一部修正（第4回理事会）

（編集の方針）一部削除

東獣ジャーナルの編集は、東京都獣医師会の活動ならびに獣医界関係情報等を会員に迅速、且つ適切に広報するものとする。

（編集の区分）文言の修正「原稿」⇒「資料」

(3) 獣医学術技術に関する学術資料、獣医界の最新情報等の解説及び報告、行政機関や日本獣医師会等からの改正事項、関係統計、国内外の公衆衛生事情等の情報提供、紹介、通知、新聞記事、トピックス等。

3) 「東獣ジャーナル編集委員会規程」の一部修正（第4回理事会）

（委員会の設置など）一部削除

7 委員会は、中立的立場を堅持し、別に定める編集規程に則り、委員会の協議に基づいて編集等審議するものとする。ただし、委員会には東京都獣医師会広報担当理事が出席し、必要に応じ会務状況等を発言することができる。

### (3) その他

#### 1) 事務局の移転

本会事務局が設置されている新青山ビルの OA 化、LED 化に伴う設備更新と、日本獣医師会事務所拡張が重なったことから、事務局を同じフロアの隣室に移動した。

#### 2) 総会開催形式の変更

COVID-19 の流行対策により本会総会会場での三密対策として、委任状参加に加え、書面による議決権行使の方法を選ぶことができるよう、様式の検討を行い、第 9 回定時総会から実施された。

#### 3) COVID-19 の流行による影響に対し本会が実施した対策

##### 【本部】

- ①令和 2 年度役員報酬を 1 割削減した。
- ②本会の財務状況の現状の確認と令和 3 年度以降の会務運営と財務状況の改革について議論し、事業のスリム化、公益事業の予算要望、福利厚生制度、会費、会員制度の見直しについて検討した。

##### 【会員】

- ①COVID-19 に感染した飼い主と飼育動物への対応に関する助言と PPE 資材の提供
- ②COVID-19 に感染した飼い主の飼育動物に対し必要に応じた PCR 検査の提供
- ③不足資材（マスク）の共同購入
- ④動物病院内での COVID-19 への感染者、または濃厚接触者の発生に伴う検疫対策として実施した休診に対する災害見舞金の支給（令和 2 年度は 2 件）
- ⑤令和 2 年度福利厚生費の免除
- ⑥狂犬病予防接種事業事務手数料の免除
- ⑦令和 2 年度会費の納入期限の延長
- ⑧賛助会員へのアンケートを実施。感染対策による会員とのコミュニケーション機会の減少が課題である旨の結果を受け、会員向け特設ページや機関誌による会員への情報提供を実施
- ⑨賛助会員の業務上の感染対策の助言（東京都獣医師会霊園協会）
- ⑩賛助会員の協力を得て COVID-19 による助成金情報に関するウェブセミナーを実施
- ⑪賛助会員の協力を得て遠隔獣医療に関するウェブセミナーを実施

##### 【事務局】

収益減に対策するため、経費節減



## 7. 本会組織の会員状況

2020年度末会員数は、A会員名624名、B会員458名、計1,082名である。  
 年度内の入会は35名、退会84名（逝去4名含）、長寿会員57名（年度末の実績）のうち、会費免除高齢会員53名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A会員			B会員			計		
	2020年度 会員数	2019年度 会員数	差異	2020年度 会員数	2019年度 会員数	差異	2020年度 会員数	2019年度 会員数	差異
中央	28	27	1	10	11	△1	38	38	0
文京	15	16	△1	4	4	0	19	20	△1
新宿	16	16	0	4	6	△2	20	22	△2
中野	17	16	1	2	2	0	19	18	1
杉並	40	39	1	9	9	0	49	48	1
世田谷	59	59	0	36	38	△2	95	97	△2
渋谷	7	7	0	1	1	0	8	8	0
目黒	22	25	△3	6	6	0	28	31	△3
大田	42	42	0	21	17	4	63	59	4
品川	20	20	0	5	4	1	25	24	1
勝島	8	9	△1	3	3	0	11	12	△1
江東	20	20	0	4	4	0	24	24	0
墨田	18	18	0	1	1	0	19	19	0
城北	19	18	1	0	1	△1	19	19	0
葛飾	20	20	0	1	1	0	21	21	0
江戸川	22	21	1	8	7	1	30	28	2
足立	16	17	△1	1	0	1	17	17	0
北	13	13	0	0	0	0	13	13	0
豊島	15	13	2	1	1	0	16	14	2
板橋	17	17	0	3	3	0	20	20	0
練馬	32	36	△4	6	7	△1	38	43	△5
武蔵野三鷹	11	13	△2	2	2	0	13	15	△2
北多摩	32	34	△2	3	3	0	35	37	△2
多摩東	24	24	0	1	3	△2	25	27	△2
南多摩	13	13	0	3	3	0	16	16	0
八王子	20	20	0	0	1	△1	20	21	△1
町田	19	18	1	0	1	△1	19	19	0
多摩西	39	40	△1	4	4	0	43	44	△1
小計	624	631	△7	139	143	△4	763	774	△11

職域	B会員		
	2020年度 会員数	2019年度 会員数	差異
農水省	3	3	0
動薬検	0	0	0
都産労	7	7	0
都公衆衛生	25	26	△1
東大	15	15	0
農工大	16	16	0
日獣大	28	31	△3
生物医学	21	22	△1
日生研	7	7	0
松研	2	2	0
中央競馬	3	3	0
共済	11	10	1
動物薬事	31	34	△3
かんらん	150	131	19
小計	319	307	12
B会員計	458	450	8

2020年度会員数	A会員	B会員	合計
	624	458	1082

東京都獣医師会総会員数			
	2020年度 会員数	2019年度 会員数	差異
総計	1082	1081	1

## II 事業実施報告

### I. 公益目的事業

#### 1. 都民公開シンポジウム開催事業

新型コロナウイルス感染症対策により、令和2年度は実施していない。

#### 2. 狂犬病予防対策推進事業

令和元年度に引き続き、狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。

令和2年度集合注射における注射頭数は37,587頭の実績となった。(前年比▲56%、45,560頭減少)

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のための緊急事態宣言発令下により定期集合注射形態での実施が十分に出来なかった。

また、狂犬病予防に関する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

#### 2-ア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

平成26年度に本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性に対する啓発活動を継続実施した。

#### 2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスターを活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。

#### 2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病に対する意識向上、狂犬病の臨床診断能力の向上及び狂犬病に関連する法規の再確認を行うため、狂犬病支部担当者会議を開催した。本年は特に集合注射における新型コロナウイルス感染症対策などの意見交換も行った。また、狂犬病予防接種の猶予のあり方について、本会として「会員は健康診断書を発行し、猶予の判断については基礎自治体に委ねる」方法を推奨した。

#### 2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策により集合注射を中止する自治体があったことから、27の地域支部のうち14の支部において、狂犬病予防定期集合注射を実施した。その他支部においても集合注射以外における予防接種実施時に、地方自治法施行令第158条の規定に基づき行政事務を受託することにより、動物病院での注射済票交付を実施、および法による犬の登録受けなどして、狂犬病予防注射の接種率向上および飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、23区および26市5町8村の幹事区並びに幹事市と適切な狂犬病予防注射実施について情報交換を行った。また獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

#### 2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

令和2年度は実施していない。

### **3. 災害時の動物救護支援に関する事業**

本会内には災害、人と動物の共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。

各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

#### 3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、本部及び、支部において、都及び市区町村で開催する防災担当者会議等にオンラインで参加した。

また、令和2年度東京都・北区合同総合防災訓練（北区中央公園周辺・11/22）が開催されたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、東京都福祉保健局担当者のみの参加とし、ブース出展を通じ都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

平時においては、有事を想定して、安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。

この安否確認メール未達対策のため毎月15日にテスト送信を実施した。

東京VMAT検討委員会を開催し、東京VMATの設置について検討した。

#### 3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上及び公共の健康福祉増進に寄与した。

新型コロナウイルス感染症について、感染症対策セクションにおいて、有識者との連携による正しい情報発信に努め、不確実な情報の拡散による飼い主のパニックを抑えるとともに、本会会員へ院内における個人用防護具の適切な取扱法などを提供することにより、動物病院における感染予防対策に貢献することができた。

これらの情報は、全国の獣医師会、都道府県行政、基礎自治体にも公開した。

また、Facebook、Twitter、HPによる情報発信を継続した。

## 【取材協力と情報提供】

- ①2020. 03. 18 産経新聞（掲載は4. 1）
- ②2020. 04. 07 J-castニュース
- ③2020. 04. 07 読売新聞web ヨミドクター
- ④2020. 04. 08 毎日新聞東京本社科学環境部
- ⑤2020. 04. 10 読売新聞東京本社編集局社会部
- ⑥2020. 04. 14 毎日新聞社東京本社社会部
- ⑦2020. 04. 15 ロイヤルカナン ジャポン Inc.
- ⑧2020. 04. 15 公益社団法人日本愛玩動物協会
- ⑨2020. 04. 17 株式会社 文藝春秋 「文春オンライン」編集部
- ⑩2020. 04. 16 日本経済新聞社 編集局社会部
- ⑪2020. 04. 17 東京新聞（中日新聞東京本社）社会部
- ⑫2020. 04. 20 朝日新聞大阪本社地域報道部
- ⑬2020. 04. 20 NHK首都圏放送センター「ひるまえほっと」
- ⑭2020. 04. 21 東洋経済オンライン
- ⑮2020. 04. 21 一般社団法人全国ペット協会
- ⑯2020. 04. 22 TBSテレビ「あさチャン」
- ⑰2020. 04. 22 NHK報道局科学文化部
- ⑱2020. 04. 23 フジテレビ報道番組「ライブニュース it！」
- ⑲2020. 04. 27 株式会社テレビ朝日報道局 ニュースセンター 社会部
- ⑳2020. 05. 01 読売テレビ「朝生ワイド す・またん！&ZIP」
- ㉑2020. 05. 14 フジテレビ情報制作局『直撃L I V Eグッディ！』
- ㉒2020. 05. 18 NHK総合テレビ（島根県ローカル）『コロナ危機 しまねの声』
- ㉓2020. 05. 21 株式会社キリカン洋行
- ㉔2020. 06. 08 株式会社KADOKAWA「わんにゃんウォーカー」
- ㉕2020. 07. 01 ベネッセコーポレーション いぬ・ねこのきもちWeb編集室
- ㉖2020. 07. 08 エイ出版社「RETRIEVER」
- ㉗2020. 07. 16 共同通信社 編集局 文化部
- ㉘2020. 08. 14 毎日新聞統合デジタル「特集ワイド」
- ㉙2020. 08. 17 フジテレビ「とくダネ！」
- ⑳2020. 09. 26 辰巳出版「プードルスタイル」「チワワスタイル」
- ㉑2020. 11. 06 ベネッセ「いぬのきもち」1月号
- ㉒2021. 01. 07 ベネッセ「いぬのきもち」4月号
- ㉓2021. 02. 15 青森テレビ報道制作部「わっち！！」

本会が発信した、一連の情報を以下に記す。

## 【一般向け情報】

- ①2020. 04. 05 : COVID-19環境の犬猫の扱い（一般向け）
- ②2020. 04. 08ver : コロナQ&A.
- ③2020. 04. 21 : 東京都医師会からの新型コロナウイルス感染症情報と、縫わずに

作れる！簡易マスクの作り方の紹介

- ④2020. 04. 24ver：コロナ Q&A.
- ⑤2020. 04. 24：COVID-19環境の犬猫の取り扱いver2（一般向け）
- ⑥2020. 04. 27：コロナ対策\_\_ペットを預ける準備のポイント
- ⑦2020. 05. 14：新型コロナウイルス感染症とペットに関する情報について
- ⑧2020. 06. 05：預かりペット対応時の防護策
- ⑨2020. 07. 09：新型コロナウイルスについて
- ⑩2020. 07. 09：新型コロナウイルスに感染した人が飼っているペットを預かるために知っておきたいこと（Ver. 4）
- ⑪2020. 08. 06：ペットの新型コロナウイルス感染症のPCR検査について
- ⑫動物愛護週間中央行事（屋内）への講師派遣（9/26）

#### 【会員向け発信情報】

- ①2020. 04. 05：COVID-19環境の犬猫の扱い
- ②2020. 04. 07：緊急事態宣言を受けて
- ③2020. 04. 09：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行拡大に伴う、狂犬病予防法に基づく狂犬病の予防注射の時期について
- ④2020. 04. 11：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行拡大に伴う、非常事態宣言を受けて(Q&A)
- ⑤2020. 04. 17：東京都緊急事態措置関連情報
- ⑥2020. 04. 22：新型コロナウイルス感染症の陽性者等が発生した場合における衛生上の対応ルール（例）等 情報提供
- ⑦2020. 04. 30：新型コロナウイルス感染症飼い主からのペットの保護預かりに関するアンケート依頼
- ⑧2020. 05. 01：新型コロナウイルス感染症飼い主からのペットの保護預かりに関する補足説明
- ⑨2020. 05. 08：狂犬病予防法に基づく狂犬病の予防注射の時期について\_他
- ⑩2020. 05. 13：預かりペット対応時の防護策
- ⑪2020. 05. 13：新型コロナウイルス感染症対策 関連情報
- ⑫2020. 05. 19：狂犬病の集合予防注射の実施時期とワクチン購入に伴う普及啓発費について
- ⑬2020. 05. 29：新型コロナウイルス感染症飼い主からのペットの保護預かりに関するアンケート報告
- ⑭2020. 06. 03：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う、対策等についての連絡
- ⑮2020. 06. 04：預かりペット対応時の防護策
- ⑯2020. 07. 17：新型コロナ感染症に関するアンケート報告
- ⑰2020. 09. 08：新型コロナ院内ポスターについて

このほか、感染症対策セクションより以下の情報について支部長を経由した連絡、及び本会SNS情報伝達ツール登録者へ周知し注意喚起を図った。

- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関わる発生情報

7/16付支部長連絡 SFTS発症猫を診察した獣医師がSFTSを発症した事例について

3/25付支部長連絡 「SFTS疑いネコ診療簡易マニュアル」について

#### 4. 獣医公衆衛生対策推進事業

##### 4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。

①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④コリネバクテリウム感染症 ⑤犬ブルセラ症(犬のみ) ⑥トキソプラズマ症(猫のみ)については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取した。

結果として令和2年度においては、20病院の診療頭数(犬75,078頭、猫37,518頭)の内、①皮膚糸状菌症(犬24頭、猫44頭9)、②疥癬(犬2頭、猫2頭)、③回虫症(犬3頭、猫38頭)、④コリネバクテリウム感染症(犬5頭、猫3頭)、⑤犬ブルセラ症(犬のみ・0頭)、⑥トキソプラズマ症(猫のみ・2頭)の合計 犬34頭、猫89頭の陽性検体が確認された。

また、腸管出血性大腸菌(EHEC)、薬剤耐性大腸菌、SFTSウイルスについては、協力病院の内、6病院によりサンプリングを行った。

SFTSウイルスについては、6病院6検体(犬3頭、猫3頭)にて陰性であった。

検査に当たっては富士フィルムVETシステムズ株式会社と東京都健康安全研究センターの協力を得た。

##### 4 - イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

また、平成30年度に本会HPに設置した「人と動物の共通感染症ガイドライン Web版」掲載内容の内、E型肝炎、腸管出血性大腸菌感染症、日和見真菌症、輸入真菌症、重症急性呼吸器症候群、ニパウイルス感染症、ウェストナイル熱、ツツガ虫病、日本紅斑熱、マラリアの項を最新の情報に改訂するとともに、「SFTS 疑いネコ診療簡易マニュアル」を作成し会員へ配布するとともに、HPにより獣医療従事者に注意喚起するなどし、広く都民に対し「人と動物の共通感染症」に関する知識の普及啓発を行った。

#### 5. 学校動物飼育対策推進事業

新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

##### 5 - ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説に示された通り、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を、支部委託事業として都内全域において行った。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策が必要であったことから、訪問回数の削減や、訪問時の活動に制限が生じたが、手指消毒やマスク、フェイスシールドを用いたり、webを利用した講義に変更したりすることにより、動物由来の感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導等、児童や教員に対し学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる情報提供に努めた。

#### 5-イ. 学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

獣医師向け「学校飼育動物 獣医師養成講座」をオンラインセミナー形式で開催し、全3回受講した獣医師28名（本会会員10名 非会員18名）に対して修了証を発行した。

#### **【内 容】**

開催日：第1回10月18日（日）、第2回11月8日（日）、第3回1月31日（日）  
すべてオンラインセミナーによる

申込総数：88名

参加者数：第1回65名、第2回64名、第3回50名

#### 第1回目

総論：東京都教育庁地域教育支援部 職員

「学校飼育動物にかかる獣医師を活用するためのガイドラインについて」

東京都教育庁指導部 職員

「小学校動物飼育推進校事業について」

各論：小嶋篤史（世田谷支部）

「チャボの臨床検査」

#### 第2回目

総論：桑原保光（桑原動物病院 どうぶつのウェルネスセンター 院長）

群馬県獣医師会「動物ふれあい教室」の取り組みについて」

各論：田向健一（大田支部）

「ウサギの臨床」

#### 第3回目

総論：高橋 亨（西東京市立保谷第一小学校 校長）

「学校飼育動物の教育的意義と学校獣医師への感謝」

各論：田向健一（大田支部）

## 「モルモットの臨床」

### 5-ウ. 動物飼育作文コンクール；

例年、支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰してきたが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、中止とした。

### 5-エ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、会員獣医師を動員し、以下の5つの推進校において、生徒と担当教師を対象とし、①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し次年度事業への礎とした。事業が継続されることにより、各学校ともに学習指導要領に則った飼育（1、2年生による継続飼育）実践方法の研究がなされるようになった。

- 1) 新宿区立東戸山小学校
- 2) 世田谷区立太子堂小学校
- 3) 中野区立白桜小学
- 4) 青梅市立第七小学校
- 5) 青梅市立新町小学校

### 5-オ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、230件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

## 6. 動物愛護啓発事業

### 6-ア. 催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する2020動物感謝デー、公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催する「世田谷区動物フェスティバル」、「第5回世田谷フラ・フェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、中止とした。

適正飼育支援の一環として15歳以上の犬猫を対象とした長寿犬・長寿猫表彰を行った。結果、75病院、1421件の申し込みがあった。

同事業については、飼い主からの問い合わせもあり好評を得、適正飼養の啓発への一定の効果が得られた。

『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災BOOKを、インターネットにて継続して販売を行った。

動物のいのち救済基金に関する活動報告を行っているサポーターミーティングについて



は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、中止とした。

2020年度『動物のいのち救済基金』募金総額は1,301,626円（総計34件）となった。

東京都飼い主のいない猫の一時保護事業実施要綱（令和2年9月30日）に基づき、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に備え、競技会場周辺の飼い主のいない猫の一時保護を試行し、実施方法を検証することを目的として、本会有志会員病院（42病院）の協力により、猫の一時保護事業を実施した。

結果、登録された42病院の内11病院で猫18頭、延べ790日の預かりを実施した。

#### 6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

#### **7. 医療廃棄物等適正処理活動事業**

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」オンライン開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

#### **8. 身体障がい者支援活動事業**

東京都福祉保健局と協力し身体障がい者を支援する目的で、動物診療施設等の協力を得て「ひかりの箱」募金活動を推進した。

東京都福祉保健局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、身体障がい者補助犬診療券の交付を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。盲導犬、聴導犬、介助犬の増加に伴い利用者数が増加したことから、令和2年度は1頭につき2万円の診療券150頭分を交付した。

2019年度（2021年3/31現在）では、181件、2,032,808円の募金額を得て、身体障がい者補助犬診療費の一部に充当した。

#### **9. 夜間診療活動及びマネジメント事業**

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

#### **10. 小笠原自然環境保護活動事業**

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、本会会員の協力の下、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行ってきた。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認された。一方で、令和2年に入り、母島などに生息している、わが国固有種のオガサワラカワラヒワの生息数が400個体以下と絶滅の危険性が高くなっていることが指摘された。その為、今後は母島でのノネコの捕

獲も強化する必要性が指摘され、本会に対しては、今まで以上にノネコの引き受けが期待されている。

#### 10ーア．保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した(2020年度97頭、累計捕獲頭数1,053頭うち都内搬送頭数946頭)。

新規受け入れ病院を確保するため、本事業の広報に努め、小笠原自然保護官事務所からの小笠原ネコプロジェクトに関するメーリングリスト加入依頼に協力するとともに、島内譲渡促進やペット条例の制定に向けての検討に協力した。

#### 10ーイ．小笠原諸島現地視察活動事業；

本年度は実施していない。

#### 10ーウ．シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

WWF（公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン）の呼びかけにより、国際自然保護連合日本委員会、公益社団法人 東京都医師会、公益社団法人 日本医師会、公益財団法人 日本自然保護協会、公益社団法人 日本獣医師会、公益財団法人 日本野鳥の会、日本ワンヘルスサイエンス学会、人と動物の共通感染症研究会、認定NPO法人 野生生物保全論研究会、一般社団法人 リアル・コンサベーションとともに、「人と動物、生態系の健康はひとつ～ワンヘルス共同宣言」の発表と、「人と動物、生態系の健康はひとつ～ワンヘルスシンポジウム」を後援し、多くの賛同を得るとともに、広く社会に自然環境保護の重要性を啓発した。

### **11. 傷病野生鳥獣保護活動事業**

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は181件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等78件については、動物の命の大切さから、保護、治療を本会からの助成により実施した。

また、治療後死亡した46件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

### **12. 学会・講習会活動事業**

獣医師として最新の専門技術と知識や情報を得ることで研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施

した。本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）において小動物獣医療施設の適切な労務環境整備による獣医療の安定提供、臨床現場における就労環境の向上等を目的としたオンライン講習会を行い40名の参加を得た。

開催日：令和3年3月7日 19:00～20:30

内 容：第一部 「総論と知っておくべきポイント」 弁護士 田村勇人  
第二部 「事例・事前アンケートを基に」 ディスカッション  
第三部 質疑応答

- (1) 三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により中止とされた。
- (2) 学術国際交流活動；第11回アジア小動物獣医師会大会（FASAVA）2020 バンコク（7/16）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により中止とされた。
- (3) 日本獣医師会による講習会；日本獣医師会と連携し、小動物臨床分野に関する学術講習会を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が懸念されていたことから中止となった。
- (4) 東京都委託事業による講習会；東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、講習会を開催した。

開催日：令和3年3月7日 19:00～20:30

内 容：第一部 「総論と知っておくべきポイント」 弁護士 田村勇人  
第二部 「事例・事前アンケートを基に」 ディスカッション  
第三部 質疑応答

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等40名

- (5) 学術情報提供；  
都委託獣医師育成事業による講習会及びの映像資料等を制作し、獣医師限定のサイト上に公開した。
- (6) 支部学術講習会；  
新型コロナウイルス感染症対策により、令和2年度は実施せず。

### 13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

- (1) 東獣ホームページの充実：

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。本年度は、より情報に到達しやすいHPとするため、ユーザーインターフェースの改訂を実施した。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回の刊行と掲載情報の充実に努めた。

東京都委託事業、補助事業や本会委員会における成果物など学術情報を掲載して、知識の啓発に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、より読みやすい誌面とするように図った。

- 【特集】 No.595 (2020.4) 「オリパラで獣医師ができること」  
No.596 (2020.7) 「狂犬病、対策は万全ですか？」  
No.597 (2020.10) 「新型コロナウイルスの現場から」  
No.598 (2021.1) 「～新理事が副会長に切り込む～  
これからの時代の変化にどう対応していくか」

#### 14. 家畜衛生防疫対策事業

14-ア. 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農水省補助）；

都内の牛飼養農場において死亡牛が発生した場合に、発生場所から化製場までの適切な管理・輸送と死亡牛の適切な処理に係る費用の助成を行い、東京都が行う死亡牛の牛海綿状脳症（BSE）検査の円滑な推進を図った。2020年度実績は死亡牛9頭に対し輸送費及び適正処理費を助成し、合計90,000円の補助金を交付した。

14-イ. 家畜生産農場衛生対策事業（農水省補助）；

- (1) 疾病清浄化支援対策： 牛の慢性伝染病であるヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）及び地方病性牛白血病（EBL）による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病・BVDV-PI牛発生農場の同居牛の自主とう汰及び地方病性牛白血病（EBL）の不顕性感染牛の自主とう汰等を助成する事業である。本年度実績は、地方病性牛白血病（EBL）高リスク牛の自主とう汰1頭、自主とう汰牛評価人会の開催（1回）、補助金交付は237,585円であった。
- (2) 疾病流行防止支援対策： 吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。本年度実績は、接種頭数754頭、補助金交付は96,512円であった。

14-ウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）；

- (1) 生産農場清浄化対策： 牛の慢性伝染病であるヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）及び地方病性牛白血病（EBL）による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病・BVDV-PI牛発生農場の同居牛の自主とう汰及び地方病性牛白血病（EBL）の不顕性感染牛の自主とう汰等を助成する事業である。本

年度実績は、地方病性牛白血病 (EBL) 高リスク牛の自主とう汰 1 頭、自主とう汰牛評価人会の開催 (1 回)、補助金交付は 118,792 円となった。

(2) ワクチン接種の推進： 吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病及び牛イバラキ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病及びイバラキ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。また、生産性阻害要因となっている牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) 等の牛のウイルス性感染症の発生予防のため、牛 6 種混合ワクチン接種料の一部助成を行った。本年度接種実績は、アカバネ病ワクチン 754 頭、イバラキ病ワクチン 620 頭、6 種混合ワクチン 805 頭 (成牛)、128 頭 (預託育成牛) 及び炭疽ワクチン 413 頭 (自主事業) であった。補助金交付総額は 918,600 円であった。

#### 14-エ. 家畜防疫互助基金支援事業 (独立行政法人農畜産業振興機構補助) ;

悪性家畜伝染病 (口蹄疫、牛疫、牛肺疫、豚熱 (CSF)、アフリカ豚熱 (ASF)) の発生時に備え、発生農場の経営再建に必要な経費等を生産者が相互に支援する「家畜防疫互助基金」制度の生産者等への普及、啓発及び加入促進に努めた。2020 年度の契約者数は、乳用牛 : 31 戸、1,220 頭、肉用牛 : 5 戸、369 頭、豚 : 3 戸、834 頭 (追加納付金納入頭数) であった。

#### 14-オ. 馬飼養衛生管理特別対策事業 ; (公益社団法人中央畜産会補助)

東京都内には、乗馬クラブ、大学馬術部、展示や愛玩用等、多様な飼養目的、飼養形態で多くの馬が飼養されている。一方、馬の生産、流通の国際化等の進展や東京オリンピック開催を控え、海外からの感染症の侵入、流行の危険性も大きい。防疫体制の脆弱な競走馬以外の馬の飼養衛生管理体制の総合的な整備を図る必要があることから、公益財団法人全国競馬・畜産振興会畜産振興事業の一環である本補助事業により以下の事業を実施し、馬の飼養衛生管理体制の強化・向上を図った。

##### (1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会

新型コロナウイルス感染症流行状況を考慮し書面開催 (令和 3 年 3 月 29 日)

送付資料 :

- ・令和 2 年度馬の飼養衛生・防疫対策関係事業の実施状況について
- ・平成 30 年度、令和元年度馬獣医療実態調査結果報告 (全国集計結果 [統合版])
- ・馬の感染症とその予防について (JRA 馬事部防疫課 編)

出席者 : 委員等 6 名

##### (2) 馬飼養衛生管理技術地方講習会

新型コロナウイルス感染症流行状況を考慮し開催を中止

講習会開催の代わりとして馬の飼養衛生管理技術向上に係る資料を送付した。

送付資料 :

- ・馬の感染症とその予防について (JRA 馬事部防疫課 編)

送付先 : 都内馬飼養者及びその他馬飼養関係者 36 か所

##### (3) 地域馬獣医療実態調査の実施

アンケート形式による馬飼養者の飼養衛生管理状況等の実態調査の実施

調査対象 : 都内馬飼養施設 35 か所 有効回答数 : 15 か所

14ーカ．馬防疫強化地域推進対策事業；（公益社団法人中央畜産会補助）；

都内で飼養される競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種を推進し、都内における馬インフルエンザに対する高い免疫力の確保、維持を図り、もって競馬、馬術競技等の円滑な開催及び馬事振興に資するため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会の開催（1回）及び馬インフルエンザワクチン接種費助成事業を行った。東京都家畜保健衛生所の協力を得て広く都内馬飼養者に事業案内パンフレット、実施要領を送付した結果、昨年度の助成頭数10戸74頭を上回る14戸155頭に助成金を交付した。

(1) 馬ワクチン接種等地域推進対策検討会開催事業

開催日：令和2年9月25日（金）

開催場所：東京都家畜保健衛生所 会議室

参加者：東京都食料安全課、東京都家畜保健衛生所、東京都獣医師会

協議事項：・馬の飼養衛生防疫対策関係事業の令和2年度事業について

・馬インフルエンザワクチン接種率向上対策

・東京オリンピック馬術競技関係の防疫対策について

14ーキ．家畜自衛防疫推進事業（公益社団法人中央畜産会補助）；

2020年度は実施していない。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

都の委託を受けて小動物獣医療の地域への安定的な提供と人と動物のより良い共生社会の構築に寄与することを目的とし、獣医師育成対策事業（都委託）において小動物獣医療施設の適切な労働環境整備による獣医療の安定提供、臨床現場における就労環境の向上等を目的としたオンライン講習会を行った。

開催日：令和3年3月7日 19:00～20:30

内容：第一部 「総論と知っておくべきポイント」 弁護士 田村勇人

第二部 「事例・事前アンケートを基に」 ディスカッション

第三部 質疑応答

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等40名

また当日の講習内容をVTRにまとめ、本会HP上で公開して広く普及啓発を行った。

## II. 収益事業及びその他の事業

### (1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

### (2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 16件 ②傷病見舞金 6名 9回 ③災害見舞金 2件
- 2) 旅行保険の加入 なし
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈 4件

### (3) 入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

また、賛助会員83社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の充実に積極的に取り組んできた。

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、動物病院の取組みに対する公的経済支援情報や雇用に関わる対策情報等、会員の病院経営に役立つ情報を適宜発信した。

### (4) その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

### (5) 事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った